

武蔵野北高等学校

令和7年度（3学年用）

教科

国語

科目

文学国語

教科：国語

科目：文学国語

単位数：2単位

対象学年組：第3学年1組～6組

使用教科書：高等学校文学国語（筑摩書房）

教科国語の目標：

【知識及び技能】	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。
【思考力、判断力、表現力等】	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目文学国語		の目標：					
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めてたりしている。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読					
「小説とは何か」（三島由紀夫） 【知識及び技能】・「小説とは何か」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。・「小説とは何か」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かする。・「小説とは何か」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深める。・「小説とは何か」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使う。・「小説とは何か」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。・「小説とは何か」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。【思考力、判断力、表現力等】・「小説とは何か」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。・「小説とは何か」と他の作品を比較するなどして、文体の特徴や効果について考察する。・「小説とは何か」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する。・「小説とは何か」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。【学びに向かう力、人間性等】・教材の内容に関心を持。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深める。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。	①架空の物語である「小説」が、読み手に実体験のような感銘をあたえるのはなぜか、筆者の主張を踏まえて考える。②筆者の述べる「小説」の定義を50字以内でまとめる。③「遠野物語」を読んで、800字程度で感想をまとめる。	○		【知識及び技能】・「小説とは何か」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「小説とは何か」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「小説とは何か」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。・「小説とは何か」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「小説とは何か」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・「小説とは何か」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力、判断力、表現力等】・「小説とは何か」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。・「小説とは何か」と他の作品を比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。・「小説とは何か」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。・「小説とは何か」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。【学びに向かう力、人間性等】・教材の内容に関心を持っている。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深める。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	○	○	○	6	
「陰影礼賛」（谷崎潤一郎） 【知識及び技能】・「陰影礼賛」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。・「陰影礼賛」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かする。・「陰影礼賛」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深める。・「陰影礼賛」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使う。・「陰影礼賛」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。・「陰影礼賛」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。【思考力、判断力、表現力等】・「陰影礼賛」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。・「陰影礼賛」と他の作品を比較するなどして、文体の特徴や効果について考察する。・「陰影礼賛」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する。・「陰影礼賛」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。【学びに向かう力、人間性等】・教材の内容に関心を持。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深める。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。	①日常生活に潜む「陰翳」の効果について、どのような表現が用いられているか整理し、筆者の美意識を確認する。 ②「闇」が効果的な働きをしている日常生活の例を挙げ、筆者の「闇」に対する考え方を200字以内でまとめる。 ③他に筆者による日本文化論にはどのようなものがあるか、調べ	○		【知識及び技能】・「陰影礼賛」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「陰影礼賛」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「陰影礼賛」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。・「陰影礼賛」における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「陰影礼賛」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・「陰影礼賛」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力、判断力、表現力等】・「陰影礼賛」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。・「陰影礼賛」と他の作品を比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。・「陰影礼賛」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。・「陰影礼賛」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。【学びに向かう力、人間性等】・教材の内容に関心を持っている。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深める。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。	○	○	○	6	
定期考査						○	○	○	1

1 学 期	<p>「舞姫」（森鴎外）</p> <p>【知識・技能】・「舞姫」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。・「舞姫」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・「舞姫」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深める。・「舞姫」における文語体などの文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら物語などを書く際に使う。・「舞姫」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。・「舞姫」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。【思考力・判断力・表現力】・「舞姫」を参考に、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にする。・「舞姫」を参考に、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫する。・「舞姫」を参考に、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫する。・「舞姫」を参考に、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直す。【学びに向かう態度・人間性等】・教材の内容に関心を持つ。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとする。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとする。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとする。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整する。</p>	<p>①豊太郎とエリスの間に何があったのか、語りの時制や文体・時代背景なども意識して、物語を読み味わう。</p> <p>②夏目漱石「こころ」と読み比べて、「明治」という時代の特徴について話し合う。</p>	○		<p>【知識・技能】・「舞姫」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「舞姫」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「舞姫」の読解を通して、文学的な文章の種類（小説）や特徴などについて理解を深めている。・「舞姫」における文語体の文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら物語などを書く際に使っている。・「舞姫」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・「舞姫」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力・判断力・表現力】・「舞姫」を参考に、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。・「舞姫」を参考に、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。・「舞姫」を参考に、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。・「舞姫」を参考に、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。</p> <p>【学びに向かう態度・人間性等】・教材の内容に関心を持っている。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。</p>	○	○	○	6
	<p>「隠れん坊の精神史」（藤田省三）</p> <p>【知識・技能】・「隠れん坊の精神史」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。・「隠れん坊の精神史」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・「隠れん坊の精神史」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深める。・「隠れん坊の精神史」を通して表現の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「隠れん坊の精神史」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。・「隠れん坊の精神史」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。【思考力・判断力・表現力】・「隠れん坊の精神史」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。・「隠れん坊の精神史」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する。・「隠れん坊の精神史」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する。・「隠れん坊の精神史」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、この評論の背景を踏まえ、作品の解釈を深める。【学びに向かう態度・人間性等】・教材の内容に関心を持つ。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとする。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとする。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとする。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。</p>	<p>①本文を読み解いて、抽象的な表現の内容をつかみ、具体例から普遍性を引き出す論法を学ぶ。</p> <p>②「隠れん坊」や「おとぎ話」が子どもたちにとってどのような意味を持つのかについて、話し合う。</p> <p>③「隠れん坊」以外の伝統的な外遊びについて、どのようなものがあるのかを調べ、その遊びの「意味」について、600字以内で論じる。</p>	○		<p>【知識・技能】・「隠れん坊の精神史」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「隠れん坊の精神史」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「隠れん坊の精神史」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類（随想・評論）や特徴などについて理解を深めている。・「隠れん坊の精神史」を通して、映像メディアと文学作品の表現の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「隠れん坊の精神史」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・「隠れん坊の精神史」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力・判断力・表現力】・「隠れん坊の精神史」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。・「隠れん坊の精神史」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。・「隠れん坊の精神史」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。・「隠れん坊の精神史」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、この評論の背景を踏まえ、作品の解釈を深めている。【学びに向かう態度・人間性等】・教材の内容に関心を持っている。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。</p>	○	○	○	6
	定期考査					○	○		1

<p>「藤野先生」(魯迅)</p> <p>【知識・技能】「藤野先生」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「藤野先生」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「藤野先生」の読解を通して、文学的な文章の種類(小説)や特徴などについて理解を深めている。・「藤野先生」における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「藤野先生」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・「藤野先生」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力・判断力・表現力】・「藤野先生」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。・「藤野先生」の語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。・「藤野先生」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。・「藤野先生」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。・「藤野先生」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。【学びに向かう態度・人間性等】・教材の内容に関心を持つ。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとする。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとする。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとする。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。</p>	<p>①本文を読み、歴史的背景や社会状況を踏まえて、物語が描く中国人留学生の「私」と日本人教師「藤野先生」の姿を理解する。</p> <p>②この作品を読んで考えたことを、800字程度の文章にまとめる。</p> <p>③魯迅と藤野先生との関係を描いた太宰治の作品「惜別」と、この作品を読み比べ、感想を発表する</p>			<p>【知識・技能】「藤野先生」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「藤野先生」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「藤野先生」の読解を通して、文学的な文章の種類(小説)や特徴などについて理解を深めている。・「藤野先生」における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「藤野先生」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・「藤野先生」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力・判断力・表現力】・「藤野先生」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。・「藤野先生」の語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。・「藤野先生」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。・「藤野先生」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。・「藤野先生」の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。【学びに向かう態度・人間性等】・教材の内容に関心を持っている。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。</p>	○	○	○	7
<p>「ある〈共生〉の経験から」(石原吉郎)</p> <p>【知識・技能】「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。・「ある〈共生〉の経験から」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。・「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類(随想・評論)や特徴などについて理解を深める。・「ある〈共生〉の経験から」における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使う。・「ある〈共生〉の経験から」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。・「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。【思考力・判断力・表現力】・「ある〈共生〉の経験から」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。・「ある〈共生〉の経験から」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈する。・「ある〈共生〉の経験から」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察する。・「ある〈共生〉の経験から」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、教材で挙げられた作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、文学作品の解釈を深める。・「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、文学作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深める。【学びに向かう態度・人間性等】・教材の内容に関心を持つ。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとする。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとする。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとする。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。</p>	<p>①「共生」した相手を思い出さないのはなぜなのか、想像力を働かせ、極限状況に表れる人間の姿について考える。</p> <p>②本文で描かれている「孤独」と「連帯」のあり方について、話し合う。</p>			<p>【知識・技能】「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。・「ある〈共生〉の経験から」を通して、情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、自ら文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、文学的な文章やそれに関する文章の種類(随想・評論)や特徴などについて理解を深めている。・「ある〈共生〉の経験から」における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し、自ら使っている。・「ある〈共生〉の経験から」を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。・「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。【思考力・判断力・表現力】・「ある〈共生〉の経験から」の文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。・「ある〈共生〉の経験から」の筆者の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。・「ある〈共生〉の経験から」の文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。・「ある〈共生〉の経験から」に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、教材で挙げられた作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、文学作品の解釈を深めている。・「ある〈共生〉の経験から」の読解を通して、文学作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。【学びに向かう態度・人間性等】・教材の内容に関心を持っている。・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとしている。</p>	○	○	○	4
<p>定期考査</p>					○	○		1

